

ミカンバエ

○ 被害と発生生態

本種は日本在来のミバエで、カンキツ類のみに寄生する。主な発生源は放任園や管理不良のミカン園である。成虫が発生源から周辺の園に飛来し、果実に産卵することによって管理園でも被害を受ける。寄生果は、10月頃から特に果梗部周辺が早く着色し、ヘタ落ちするが、収穫期まで落果しない果実もある。県内で確認された寄生種はウンシュウ、小ミカン、ポンカン、ハナユズである。せとみ、イヨカン、スダイダイ等の果皮の厚いカンキツでは被害は確認されていない。

成虫の雌は、体長11mm程度の大型のミバエで、6月下旬から7月上旬に表土中より羽化する。7月の産卵前期間はほ場から一時姿を消すが、7月下旬～8月上旬に再び現れ、主に8月に幼果に産卵する。幼虫は、15mmに達するいわゆるウジで、産卵から約100日を経過した後、3齢で果実から脱出する。脱出は早生ウンシュウでは9月下旬から、普通ウンシュウでは11月上旬から始まり、11月中下旬にピークとなり、12月中下旬で収束するが、翌年に脱出する幼虫も少数いる。表土中にて囲蛹で越冬する。発生は年1回である。

○ 防除方法

(ア) 耕種・物理的防除

- ・発生源である放任園を伐採することが、発生を減少させるのに最も有効である。
- ・被害果（異常着色果、早期落下果実）は、ビニール袋に詰めるなど、適切な処理に努める。
- ・柑きつ園周辺の雑木を伐採するとともに、防風林を刈り込み、明るい園にする。

(イ) 薬剤防除

- ・7月下旬にスプラサイド乳剤40で成虫の防除を行う。
- ・8月下旬に、モスピランSLまたは顆粒水和剤で防除を行う。防除時期が遅れないよう注意する。
- ・前年発生した園では9月上旬に登録のあるネオニコチノイド系薬剤で追加防除を行う。
- ・薬剤の登録濃度に幅がある場合、濃い濃度で散布する。



上段 左：ミカンバエ成虫
中：被害果実外観（温州みかん）
右：幼虫
下段：被害多発園（落果被害）